絆創膏貼布試験の一考察

南四階病棟　発表者　斉藤めぐみ
鈴木幸美　立石益子　向山靖子
梅本すみ子　遠藤寿美子　千国洋子
中島美枝子　村山博子　中山和子
小谷京子　坂本まつみ　野村法子

〔Ⅰ〕はじめに

医学の発達と共に、包帯法における絆創膏は、その種類も増し、又、重要な役割を果しています。絆創膏は、使用法が簡単であり、各科領域で広く用いられていますが、欠点として、体質及び機械的刺激、アレルギーなどによる「かぶれ」も見のがすことはできません。

最近、当科において、術後使用した絆創膏全てに対して「かぶれ」を生じ、悩まされた一症例に遭遇しました。それをきっかけとし、今回、剃毛した場合と、しない場合との比較、及び絆創膏除去時の刺激の強弱の比較について考えてみました。

〔Ⅱ〕方法及び実際

(1) 対象　健康人18名

入院患者18名（これらの疾患別としては、皮膚筋炎、熱傷瘢痕、帯状疱疹、SLE、皮膚癌、外科術前等、特に障害にならないと思われる患者を選び、協力を得ました。）

(2) 検体

①紙絆　②布絆　③アクリール絆　④ヒビバン　⑤マイクロポア　⑥トランスポア　⑦クリアーテープの7種類

(3) 貼布方法

右上腕内側と外側、剃毛後10分間放置した左上腕内側と外側に各々幅1cm、長さ3cmの絆創膏を2列にひきつらない様に並べて貼布し、その上に包帯を巻き保護する。

剃毛に使用した石けんは、「浴用石けんベリカン」、使用したカミソリは、「貝印安全カミソリ」。

貼布時間は24時間。

判定時間は、絆創膏除去后30分。

はがし方は、各々内側を速く強くはがし、外側は、ゆっくり弱くはがす。

剃毛後10分間の意義

石けん及び、剃毛により、油分や汗が、もとの状態にもどるまでの最低時間。

判定基準

(−) 無反応

(±) 軽い紅斑

(＋) 紅斑＋浮腫

(卌) 紅斑＋浮腫＋小丘疹

(卌) 紅斑＋浮腫＋小丘疱

スライド説明

〔Ⅲ〕 結 果

右 上 腕

内側（強くはがす）								外側（弱くはがす）						
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
(−)	25	27	26	26	25	29	29	26	29	29	31	25	31	31
(±)	4	5	5	4	5	4	5	5	5	5	4	5	4	4
(+)	7	4	5	6	5	3	2	5	2	2	1	5	1	0
(卌)					1							1		1
(卌)														
反応者	11	9	10	10	11	7	7	10	7	7	5	11	5	5

左 上 腕（剃毛施行）

内側（強くはがす）								外側（弱くはがす）						
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
(−)	20	31	30	26	24	30	29	29	32	32	32	26	31	34
(±)	10	5	4	7	7	4	5	0	2	2	1	4	3	1
(+)	6	0	2	3	5	2	1	7	1	2	3	5	2	1
(卌)							1					1		
(卌)														
反応者	16	5	6	10	12	6	7	7	3	4	4	10	5	2

〔Ⅳ〕 考 察

○剃毛した場合としない場合とでは、剃毛しない方が、ほとんどの絆創膏に対して、ほぼ同数に反応が現われ、剃毛した場合は、紙絆とマイクロポアによるものが強く反応している。

○はがし方の強弱については、ゆっくりはがした方が、反応の現われかたも少なかった。

○４方法のいずれをみても、①の紙絆と⑤のマイクロポアによるものの反応が多く、全体の$\frac{1}{3}$以上を示している。

○接着力の割合強い②の布絆と③のアクリール絆は、剃毛せずに更に強くはがした場合に、反応が強く現われた。

○剃毛した場合は、しない場合よりも、カミソリ、石けん等の前段階の機械的刺激が加わる為

「かぶれ」が多く反応することを予想していたが、結果は、剃毛した場合、割合かぶれが少なかった。これは、体毛の有無、皮膚の汚れが、剃毛することによって、減少する為ではないかと考えられます。

〔Ｖ〕 終　り　に

日頃、何気なく行なっていた絆創膏のはり方やはがし方が、今回の研究により考えさせられました。当科において一番手軽に用いていた紙絆に多くの「かぶれ」が生じたことは、意外な結果でした。貼布した人数が３６人と少なかった為、充分納得のいく結果が出せなかったことは、残念だったと思います。

今後この結果をもとにして、「かぶれ」の少ないものから使用し、又、はがし方についても、刺激を最小限にとどめていきたいと思います。又、入院時アナムネーゼにより、かぶれ易い人には、貼布試験を行ないたいと考えています。

なお、術後における「かぶれ」については、消毒及び、全身状態が、普段の状態とは異なってくる為、今回の結果とは多少違ってくると思われます。研究のきっかけとなりました患者さんには、最後に貼布試験用絆創膏を使用してみましたところ、特に反応もおこさず、又、創部の固定も充分にできました。この貼布試験により、反応が現われた人には、ステロイド軟膏を塗布しましたことを付け加えます。

最後にこの研究にあたり、御指導下さった先生方、御協力いただいた患者の皆様方に感謝いたします。

参考文献は略させて頂きます。